

【道端の自然】

～ ノイバラの実 ～

春、夏、秋とあんなに生きものたちでにぎわっていた緑地も、今はひっそりとしています。あたり一面の枯葉色… と思いつつ歩いていると、向こうの方に赤い小さいつぶつぶが。なにかしら？ 近寄ると、それはバラの赤い実でした。クリスマスにぴったりの色と形、冷えかけた私の心を、ぽっとあたたくしてくれたのでした。



ノイバラの実

バラというひびきから、西洋から入ってきたものとずっと思っていました。でもノイバラはもともと日本に咲いていたのですね。昔はうばら（うまら いばら）という名前で、そこからバラとなったようです。トゲからついた名前だったとは、かわいい花よりもトゲのほうが印象的だったのでしょうか。

万葉集に  
「道の辺のうまらの末（うれ）に延（は）ほ豆のからまる  
君をはかれか行かむ」

こんなにかわいい花なのに…

という歌があります。いばらの先に絡む豆のように、私にからみついている君と別れて行かなくてはならないのか…防人の歌です。ここで歌われているのも、やっぱトゲです。

せめて私は、夏には花を愛で、冬には実をリースにしたりお茶にしたり（緩下剤にもなるようですよ）して楽しむことにしましょう。（小川）

